

みんなの思いが詰まった 大崎中学校屋上産ハチミツ



大崎中学校の生徒が、今年4月から、コミュニティ・スクールで『ミツバチプロジェクト』に取り組みました。

本プロジェクトは、同校学校運営協議会が、SDGsの一環で子どもたちに地域産業を知ってもらうことや環境学習を目的に企画し、野方の佐元養蜂場の協力を得て実施されました。

生徒は、4月に中学校の屋上にミツバチの巣箱を設置し、ハチミツの採取やハチミツの瓶ラベルのデザイン考案、ラベル貼りをを行い、11月14日（日）の『おおさきチャレンジ朝市』で販売を体験しました。
今月号では、4月から密着取材した『ミツバチプロジェクト』を特集します。

コミュニティ・スクールとは

保護者や地域住民が一定の権限を持って運営に参画する学校運営協議会を設置している学校のことをいいます。

学校運営協議会とは、これまでの『学校評議会』に替わるもので、学校・職員・保護者・地域の方々が参加し、学校と地域の共通した目標を確かめ合い、同じ目標に向かってお互いが役割を分担しながら、様々な取組みをおこなっていく協議会です。

大崎中学校は、平成28年度から県内でいち早くこの取組みを初め、今年で6年目を迎えました。



START

校舎屋上にミツバチの巣箱を設置

4月12日（月）、生徒会役員が校舎屋上に佐元養蜂場の巣箱を5箱運び入れ、設置しました。1箱には1～2万匹のミツバチがびっしり！生徒は最初少し緊張気味でしたが、「かわいい」と手にのせる姿も見られました。ミツバチは大崎町内の花の蜜を集めに飛んでいきました。



東水流 花音さん

生徒会として、このハチミツを大崎中全校生徒に広めていきたい。大崎産のブランド品として朝市などで販売できるよう、今日見て学んだことを将来につないでいきたい。



佐元 和寿さん

ミツバチは、花粉を運ぶことで受粉を手伝い、植物を次世代に繋いでいく役割をしている。このプロジェクトを通して、ミツバチの大切さを学んでほしい。

